



前任のユン・ソヒ(尹昭熙)さんを引き継いで4月から町交流促進課で国際交流員として勤め、韓国に向けて東川の新たな魅力発信を始めています。「チャンス(長水)郡、ヨンウォル(寧越)郡とも交流していると聞いているので、その小さな手足になれるようにもなりたい」。

札幌市の国際交流員として3年間勤めました。翻訳、通訳、学校訪問、小さな子供向けのイベント

に参加したり、市民とふれあいイベント、姉妹都市・大田(テジョン)広域市との連絡など、幅広い仕事だったそうです。

「毎週一回、『レッツ・トーク・ハングル』という韓国語会話講座があつてすごく楽しかった。そこで友達が出来ました」。7月、

その友達が札幌から遊びに来て、東川の町を楽しく案内することができたそうです。

着任後、6月からスタートした町民向けの韓国語講座では札幌での経験を生かし、日本人が難しいと思う発音を分かりやすく教えるように心掛けています。

東川の印象は「大きな小学校にびっくりしましたよ。自分に子どもが出来たら、こんな学校に通わせたい。おいしいお店も多い」ということ。

「でも残念なのは、勤めの時間が終わってから夕方に行けるお店がない」。



「ミンジの日本語は、ドラマで覚えたのがすぐ分かる」と大学時代に先生から言われていました」というほど日本のドラマ、アニメーションが大好きだったそうです。

日本語は中学、高校で第2外国語として学



韓国語初級講座(7月、町立日本語学校で)



「韓国を知るセミナー」で、「新韓国」というテーマでプレゼンテーションしました(2015年10月、札幌国際プラザで)



姉妹都市フェスティバルの韓国・テグ市ブースで(今年1月、札幌コンベンションセンター)

びました。「高校生の時は日本語を勉強するのが楽しかった。ドラマで見る風景の所に行ってみたかった」と思っていました。韓国で放送されていたテレビドラマ『ごくせん』がすごく好きで、ヤンクミ(ドラ

マ中、主人公の高校教師のあだ名)みたいな正義感あふれる人になりたいと思っていましたよ」。

大学時代、先輩の特別講座で国際交流員という働き方があることを知って、日本で国際交流員の仕事をすることだけを目指していたそうです。札幌の大学に1年間留学し、国際交流員としての勤務地の第一希望は、迷わず札幌を選んだそうです。

「留学で札幌に来ることが出来てすごくよかったです。よさこいソーラン踊り、ビアガーデン、雪まつり…。韓国では全部有名です。帰るたびにお土産で家族に札幌の話をついばいできました。3年間で北海道のいろいろな魅力を感じる事が出来ました。東川で働くことが出来て、心からうれしい」。

ソン・ミンジ(孫政志)さん

韓国・大邱(テグ)広域市出身、25歳。大邱大学卒業(日本語日文学及び経営学を専攻)。日本語教員資格2級習得。2014(平成26)年4月～今年3月まで3年間、札幌市国際交流員。